

科目名	相談援助の理論と方法Ⅲ						
科目名(英)	Theory and method of consultation assistance Ⅲ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川原ゆり		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	障害児治療教育センター相談員・養護教員		
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	この科目は、社会福祉士の養成科目であり、3年間の集大成としての科目であるため、改めてソーシャルワークとは何か、ソーシャルワークの歴史と現状、未来について考える。同時に残り半年で現場に出る学生たちに、自分たちは専門職として働くと言う自覚を養い、プロとして働けるような知識と価値を身につけてもらいたい。						
授業形式	講義： ○	演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○		△			ソーシャルワークの「価値」について学び、同時にソーシャルワーク理論と方法について理解する。	
	○		△			「社会福祉」の問題に関心を持ち、学ぶ意欲を向上させることができる。	
	○		△			各分野のソーシャルワークの歴史と現状、未来について理解できる。	
	○		△			ソーシャルワーカーをめざすために自分自身を振り返ることができる。	
テキスト・教材 参考図書	『よくわかる社会福祉第10版』山懸文治・岡田忠克編 ミネルヴァ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ソーシャルワークとは何か？各分野のソーシャルワーク				理解度確認テスト	
	2	専門職の役割				映像鑑賞→グループワーク	
	3	専門職の役割				映像鑑賞→グループワーク	
	4	ソーシャルワークの新しい分野～更生保護・刑務所・少年院等				映像鑑賞→グループワーク	
	5	現代社会とソーシャルワーク～児童福祉とソーシャルワーク①				講義→グループワーク→講義	
	6	現代社会とソーシャルワーク～児童福祉とソーシャルワーク②				講義→グループワーク→講義	
	7	現代社会とソーシャルワーク～児童福祉とソーシャルワーク③				講義→グループワーク→講義	
	8	現代社会とソーシャルワーク～格差社会				講義→グループワーク→講義	
	9	現代社会とソーシャルワーク～格差社会				講義→グループワーク→講義	
	10	障害者福祉の今とこれから①				講義→グループワーク→講義	
	11	障害者福祉の今とこれから②				講義→グループワーク→講義	
	12	地域社会の今とこれから①				講義→グループワーク→講義	
	13	地域社会の今とこれから②				講義→グループワーク→講義	
	14	まとめ				講義→グループワーク→講義	
15	正試験対策						
評価方法	(1)授業の出席状況。授業への参加態度。 (2)内容の理解度。 (3)定期試験を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	毎回の感想文		◎		◎		10%
	授業への参加度				◎		30%
	意見発表・グループワーク	○	◎		◎		30%
	出席状況				◎		30%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、評価の対象としない。						

科目名	乳児保育						
科目名(英)	infant nursery						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川原ゆり		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	障害児治療教育センター相談員・養護教員		
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	乳児保育には通常の保育に加えて様々な配慮や特性があり、個々の発達段階や発達課題に応じた専門的なかかわりが必要となる。社会福祉科の特徴として施設保育士をめざす学生も多いことから、乳児院や児童養護施設の子どもたちの中にも多い「愛着障害」を切り口に、乳幼児期がいかに重要であるかを学ぶ。また、乳児保育を軸に保護者との連携や関係機関との連携、職員間の協働など基本的な知識を学ぶとともに、発達の道筋を知り、個々の保育観を高める。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				乳児保育の理念や発達過程を知り、発達の道筋に合ったかかわりへ応用することができる。	
	○					社会的養護の視点で乳児院の目的・役割や課題について考え説明することができる。	
			○			乳児の生活習慣や関わり方を理解し、応答的で心地よい言葉かけ、関わりを行うことができる。	
		○				乳幼児の保護者の気持ちを理解し、ソーシャルワークの視点を持って支援を考えることができる。	
テキスト・教材 参考図書	同文書院 初めて学ぶ乳児保育 全国乳児福祉協議会 改定新版乳児院養育指針						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	乳幼児保育の歴史変遷と必要性～社会的観点から考察				パソコンの準備をすること	
	2	乳幼児の発達段階を学ぶ《0～1歳3か月》				パソコンの準備をすること	
	3	乳幼児の発達段階を学ぶ《1歳3か月～2歳》				パソコンの準備をすること	
	4	乳児期の重要性について～愛着形成とその障害				パソコンの準備をすること	
	5	乳幼児の言葉をのばす関わりと人間関係				パソコンの準備をすること	
	6	乳児院における乳児保育				パソコンの準備をすること 事前の調べ学習の内容を理解しておくこと	
	7	乳幼児の遊びと環境構成				パソコンの準備をすること	
	8	乳児保育実践のための計画、準備				スクーリングの内容を理解して事前に考えておくこと	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)授業の評価は、出席状況と同時に授業への参加状況を見て行う。(2)乳児保育に関するレポート提出 以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準はS(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況				◎		10%
	授業への参加状況	◎			○		30%
	レポート	◎	◎		◎		60%
履修上の注意							

科目名	子どもの保健 I ②						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川端 いづみ		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	養護教諭		
対象学科・学年	社会福祉科3年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの保健の意義、子どもを取り巻く最近の問題点及び今後の課題について学ぶ。 ・子どもに起こりやすい疾病や事故について、その予防と対策についても学ぶ。 ・テキストの内容を理解した上で、自分の考えを述べるができるようになる。 						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○	○		子どもの保健の意義について知る。	
	○	○	○	○		子どもの心身の正常な発育、及び発達段階各期の特徴を理解する。	
	○	○	○	○		子どもの疾病、事故、その予防と対策について理解する。	
	○	○	○	○		保育者として、応急処置全般を理解する。	
テキスト・教材 参考図書	「よくわかる子どもの保健 第3版」						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	子どもの疾病の特徴			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。		
	2	呼吸器疾患			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。		
	3	重要な感染症・予防接種			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。		
	4	消化器疾患			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。		
	5	循環器疾患			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。		
	6	泌尿器・生殖器疾患			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。		
	7	中枢神経系疾患			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。		
	8	代謝、内分泌系疾患			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。		
	9	血液、腫瘍性疾患			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。		
	10	整形外科疾患			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。		
	11	保育現場における衛生管理			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。		
	12	子どもの事故防止対策と安全教育			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。		
	13	現場で役立つ救急時の対応-事故			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。		
	14	現場で役立つ救急時の対応-けが			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。		
15	現場で役立つ救急時の対応-アレルギー疾患			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。			
評価方法	毎回小テストを実施します。定期試験の成績と合わせての割合で評価します。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎		◎		80%
	小テスト	○	○		○		10%
	発表・宿題	○	○		○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	障害児保育						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	瀧口直子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	児童発達支援事業にて勤務		
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	様々な障害の特徴とその人たちが感じている困難さを、本人の目線に立って理解し、基本的な生活習慣の獲得、集団生活・遊びの指導・援助をできるだけ具体的に考えることができるようになる。また、保護者やきょうだいが抱えがちな悩みや困難を理解し、子育て支援を考える。さらに、関係機関との連携の進め方を理解し、それぞれのライフステージで求められているネットワークづくりやチームでの地域支援体制について考える。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					様々な障害の特徴とその人たちが感じている「困り感」を説明できる	
	○					0歳からの療育の必要性和療育のポイントを説明できる。	
	○					様々なアプローチについて簡単に説明できる。	
		○				それぞれのライフステージにおける関係機関の連携・ネットワークの実際を調べる	
		○				障害の特徴と発達段階を考慮した個別支援計画の実際を学び、具体的な配慮について考える。	
			○			障害や発達のアンバランスがあるために生きにくさを感じている方の目線で必要な配慮ができる。	
テキスト・教材 参考図書	「よくわかる障害児保育」ミネルヴァ書房、その他は授業で紹介します。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	乳幼児期の保育療育(1)保護者の思いに寄り添う					
	2	乳幼児期の保育療育(2)「育ちの根っこ」を育てる療育					
	3	乳幼児期の保育療育(3)実践編～教材研究～					
	4	DVD鑑賞「奇跡の人」					
	5	青年・成人期の自立(1)障害の重い仲間たちにとっての「労働」と「生活」					
	6	青年・成人期の自立(2)「自分らしく生きる」ということ					
	7	青年・成人期の自立(3)DVD「マラソン」鑑賞					
	8	青年・成人期の自立(4)DVD「マラソン」が教えてくれたこと					
	9	事例:20歳の発達障害の女性は、なぜ自殺しなければならなかったのか					
	10	まとめ(テスト)					
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	授業中のワークや小レポート、まとめの筆記試験、授業中の態度・意欲などの総合評価で行います。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					50%
	宿題・レポート	○	◎		◎		20%
	発表・作品				◎		15%
	授業中の態度				◎		15%
履修上の注意							

科目名	保育実習事前事後指導 I (施設)SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中山八保子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	保育士、児童養護施設、児童発達支援センターにて保育士		
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	本スクーリングは保育実習(施設)の実習指導の一環として行い、授業の中で児童養護施設の概要の理解や入所児童の理解を習得した上で、実際に児童養護施設へ見学に行き、現場の職員の話しを聞く事によって児童養護施設のみならず他の児童福祉施設や社会的養育ビジョンについての理解と関心を深めることをめざす。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		児童養護施設の見学を通して、施設の理解や入所児童についての理解が深まる	
		○				これまでに学んだことと結びつけて理解ができる	
				○		学ぶ姿勢を身につけ、積極的に質問を行ったり、視野を広げようと努力できる	
テキスト・教材 参考図書	近大教科書『知りたい時にすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』石橋裕子・林行範著 同文書院 『よくわかる社会福祉第10版』山懸文治・岡田忠克編 ミネルヴァ書房 卒業生の調べ学習を参考に作成した『児童福祉施設実習』実習指導資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1				9:00出発→10:15着 10:15~12:00 見学と説明 12:00~13:30 帰校		
	2	児童養護施設「嘉麻学園」見学					
	3						
	4	学校に帰って振り返り			14:30~グループで振り返り 質問に答えて授業		
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	見学態度・質問の有無	○			◎		50%
	レポート	○			◎		50%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	【選択】保育実習事前事後指導Ⅱ SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中山八保子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	保育所、児童養護施設、児童発達支援センターにおいて、保育士として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科 3年						
授業概要	「保育実習」での自己評価と課題・反省を踏まえ、今後自身が保育者として働く上で必要な心構え、スキルについて再確認を行う。また、教材研究を行い、自身の長所を生かせる保育を創造していく。						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					自身の課題・今後の学習課題について再確認することができる。	
	○					保育者になるという前提をもとに明確な実習に対する目標を持つ事ができる。	
			○			教材研究を通して自身と向き合い、自身の強みに気付くことができる。	
				○		自身の強みを保育に活かし、より実践的な教材研究を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
		実習目標シート作成					
	1	保育教材発表①					
	目	保育教材発表②					
	目	講義『今までの実習の振り返りを踏まえて』					
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)SCの出席(2)授業への参加意欲・発表(3)事後レポートを以下の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	SCの出席					○	10%
	授業への参加意欲・発表		○		◎		50%
	レポート	○	◎				40%
履修上の注意	遅刻(30分以上)欠席の場合近畿大学の履修規定により、単位習得不可とする。						

科目名	【選択】保育実習事前事後指導ⅢSC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中山八保子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	保育所、児童養護施設、児童発達支援センターにおいて、保育士として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科 3年						
授業概要	「保育実習」での自己評価と課題・反省を踏まえ、今後自身が保育者として働く上で必要な心構え、スキルについて再確認を行う。また、教材研究を行い、自身の長所を生かせる保育を創造していく。						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				自身の課題・今後の学習課題について再確認することができる。	
		○				保育者になるという前提をもとに明確な実習に対する目標を持つ事ができる。	
			○			教材研究を通して自身と向き合い、自身の強みに気付くことができる。	
				○		自身の強みを保育に活かし、より実践的な教材研究を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
		実習目標シート作成					
	1	保育教材発表①					
	目	保育教材発表②					
	目	講義『今までの実習の振り返りを踏まえて』					
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)SCの出席(2)授業への参加意欲・発表(3)事後レポートを以下の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	SCの出席					○	10%
	授業への参加意欲・発表		○		◎		50%
	レポート	○	◎				40%
履修上の注意	遅刻(30分以上)欠席の場合近畿大学の履修規定により、単位習得不可とする。						

科目名	乳児保育SC							
科目名(英)								
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中山八保子			
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	保育所、児童養護施設、児童発達支援センターにおいて、保育士として勤務			
対象学科・学年	社会福祉科 3年							
授業概要	「乳児保育」の授業では、人間の初期発達の理論や愛着形成について学習を行うが、このスクーリングでは、授業を基礎として応用編として演習を行う。特に乳児院の実習に行く学生が数名いるため、乳児院の役割も合わせて理解できることをめざす。							
授業形式	講義:	○	演習:		実習:			
					実技:			
					※ 主たる方法:	○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	△	○		△		乳幼児への部分保育を計画し、実践することができる。		
	△	○		△		乳児院や保育所における事例を検討し、問題解決方法を導き出すことができる。		
				○		グループにおいて積極的な協力を実践することができる。		
		○		△		振り返りを通して、個人やグループに足りない点を考え、次に活かす事ができる。		
テキスト・教材 参考図書	同文書院 初めて学ぶ乳児保育 全国乳児福祉協議会 改定新版乳児院養育指針							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	1日目	保育園での「部分保育」を計画する(3グループに分かれて)				音楽リズム・パネルシアター・お土産作りの3グループに分かれて	
	2	1日目	保育園での「部分保育」を準備する(3グループに分かれて)				シミュレーションを繰り返し、その内容を適宜、修正する。そのことでフラッシュアップを図る。	
	3	1日目	保育園での「部分保育」を実践する(はぐみらい保育園にて)				はぐみらい保育園の保育に入らせていただく	
	4	1日目	保育園での「部分保育」を振り返る(個人→グループ)				教室に戻り、振り返り	
	5	2日目	乳児院・保育園の事例検討(4グループに分かれて)				乳児院の事例3件、保育園の事例1件をグループで検討し、どのように解決するかを考え台本作り	
	6	2日目	乳児院・保育園の事例検討の劇作り(4グループに分かれて)				劇の練習	
	7	2日目	乳児院・保育園の事例検討の劇練習(4グループに分かれて)				劇の練習	
	8	2日目	乳児院・保育園の事例検討の劇発表(4グループの発表)				劇の発表	
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
15								
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	グループ内での協働・参加状況				◎		20%	
	発表への準備と実践の状況	○			○		50%	
	振り返りのレポート作成		○				30%	
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。							

科目名	子どもの保健Ⅱ SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川端いづみ		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	養護教諭・放課後等デイCEO		
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	子どもの健康と保育を考え、現場で役立つ救急時の対応を身につける。 また、赤ちゃんの沐浴や抱き方、オムツの換え方等を習得する。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○	○			赤ちゃんへの救命救急の方法を理解し、実践できる	
	○	○	○			赤ちゃんへの抱き方、沐浴の仕方、オムツ交換を実践できる	
	○	○	○			大人も含めたバイタル(血圧測定)・包帯の巻き方や止血方法を習得できる	
	○	○		○		グループでの活動に積極的に参加し、自分だけでなくメンバーによい影響を与えることができる	
テキスト・教材 参考図書	よくわかる子どもの保健						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	子どもの保健と安全についての概念				スクーリングのオリエンテーションと目標設定	
	2	赤ちゃんの抱き方とおむつ交換の演習とテスト(モデル人形での演習)				モデル人形を使ってグループで練習し、全員が合格するまでテストを受ける	
	3	沐浴の演習とテスト(モデル人形での演習)				モデル人形を使ってグループで練習し、全員が合格するまでテストを受ける	
	4	赤ちゃんの心配蘇生方法の演習とテスト(モデル人形での演習)				モデル人形を使ってグループで練習し、全員が合格するまでテストを受ける	
	5	バイタルサインの測定演習とテスト				グループメンバーをモデルにして練習を行い、全員が合格するまでテストを受ける	
	6	包帯の巻き方演習とテスト				グループメンバーをモデルにして練習を行い、全員が合格するまでテストを受ける	
	7	子どものケガ及び安全対策、応急処置の方法演習とテスト				グループメンバーをモデルにして練習を行い、全員が合格するまでテストを受ける	
	8	2日間のまとめと振り返り				最後にグループ対抗の競争を行い(包帯の演習)、その後振り返りを一人ずつ言ってもらう	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	演習とテストの技能点		○	◎	○		50%
	グループ内での協働・参加状況				◎		20%
	振り返りのレポート作成		○				30%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	障害児保育SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	渡辺裕子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	元児童発達支援センター施設長(昨年度まで)		
対象学科・学年	社会福祉科 3年						
授業概要	本スクーリングでは、1日目に児童発達支援センターでの1日体験を行い、この体験をベースに2日目には園長先生による講義を実施する。この2日間を通して、障害を持つ子どもたちとその家族に必要な保育・支援の基礎的理解が深まることをめざす。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	◎		○		児童発達支援センターの園児との関わりを通して、児発の役割や保育内容を理解する	
	○	◎		○		園長先生の講義を通して、児発の役割や保育内容の理解を深めることができる	
				◎		障害を持つ子どもとその家族について関心を持ち、保育士に求められることを考える	
		◎		○		グループワークに積極的に参加し、事例分析を行うことを通して、	
テキスト・教材 参考図書	特になし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目 児童発達支援センターの概要説明				園長先生より講義	
	2	1日目 児童発達支援センターの保育参加				グループに分かれて各クラスの保育に入る	
	3	1日目 体験を通しての疑問、改めて児発センターの役割を知る				保育に入って感じた疑問等を質問し、児童発達支援センターや専門職の役割や現状について学ぶ	
	4	1日目 振り返りのレポートを記入				体験しての感想レポートを記入し提出	
	5	2日目 レポートより質問に答えて				園長先生より前日のレポートからの疑問に答えて知識の深掘りを行う	
	6	2日目 事例の検討(グループに分かれて)				事例を提示し、グループで検討し、劇にして発表するための準備を行う	
	7	2日目 事例検討の発表(劇にする)				劇の発表と質疑応答	
	8	2日目 全体を振り返って				全体の講評とまとめの講義	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	保育への参加状況				◎		20%
	振り返りのレポート①	◎			○		30%
	グループワークへの参加状況	○	◎		○		20%
	振り返りのレポート②	◎	○		○		30%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	社会的養護内容SC					
科目名(英)						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中山八保子	
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	保育所、児童養護施設、児童発達支援センターにおいて、保育士として勤務	
対象学科・学年	社会福祉科3年生					
授業概要	本スクーリングは保育実習(施設)及び保育実習Ⅲの実習指導の一環として行い、授業の中で施設の概要の理解や児童・利用者の理解を習得した上で、「実際に実習に行った際にこのようなケースに遭遇した時どうするか?」というシミュレーションを行う。この取り組みを通して、実習時にトラブルに遭遇した際の対応方法を事前に考えられるようにしたい。					
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	◎				実習で実際に起こりうるケースを検討し、その際の対応方法を考えることができる
	○	◎				授業で学んだ知識を応用し、積極的にアイデアを出すことができる
	○			◎		グループにおいて積極的な協力を実践することができる。
	◎	○				振り返りを通して、個人やグループに足りない点を考え、次に活かす事ができる。
テキスト・教材 参考図書	近大教科書『知りたい時にすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』石橋裕子・林行範著 同文書院 『よくわかる社会福祉第10版』山懸文治・岡田忠克編 ミネルヴァ書房 卒業生の調べ学習を参考に作成した『児童福祉施設実習』実習指導資料					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	実習先の種別毎にグループに分かれ、そこで遭遇する状況を想定した課題を与えられる(例: 試し行動を繰り返す子どもをどのように理解し、関わりを持つか?)			自立支援施設・児童養護施設・障害児入所施設・児童発達支援センターのグループ	
	2	グループで事例の分析と対応方法等について検討を行う			事例についてグループで検討を行う	
	3	台本作り			事例の検討がすんだら、その内容も含めた台本の作成	
	4	練習			シミュレーションを繰り返し、その内容を適宜、修正する。そのことでブラッシュアップを図る。	
	5	リハーサル(担当教員に見てもらう)			シミュレーションを繰り返し、その内容を適宜、修正する。そのことでブラッシュアップを図る。	
	6	修正作業と練習			シミュレーションを繰り返し、その内容を適宜、修正する。そのことでブラッシュアップを図る。	
	7	劇発表と意見交換			2グループの発表→意見交換	
	8	劇発表と意見交換・全体のまとめ			2グループの発表→意見交換 全体のまとめ(教員より)	
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	グループ内での協働・参加状況				◎	
	発表への準備と実践の状況	○			○	
	振り返りのレポート作成		○			
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。					

科目名	保育相談支援SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中山八保子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	保育所、児童養護施設、児童発達支援センターにおいて、保育士として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科 3年						
授業概要	保育相談支援の基本的知識や方法・技術を講義・演習を通して学ぶ。保育者として、保護者の気持ちや支援の必要性を理解し、保護者を支えていくために保育者自身に必要な知識や思い、支援の環境などを学ぶ。また、保護者支援や日々の保護者とのコミュニケーションに必要な伝え方の技術なども演習を通して習得する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					保護者支援の意義や必要性が説明できる	
	○	○				保育者として必要な「伝え方」の技術を演習を通して習得できる。	
		○		○		グループワークにおいて、自己理解を促したり、事例を基に保護者への対応を具体的に考える事が出来る	
		○				保育における相談支援の方法を考える事が出来る。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1日目 保育相談支援とは何か					
	2	1日目 保育相談支援の基本					
	3	1日目 保育士と保育相談支援					
	4	1日目 保育相談支援の技術と方法～教材のプレゼンテーションを通して学ぶ事～					
	5	2日目 事例:「保育における保護者への伝え方」グループ学習					
	6	2日目 事例についてのグループ発表					
	7	2日目 保育者の価値観とは					
	8	2日目 振り返り・まとめ					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)SCの出席(2)授業中の意欲・関心・態度(3)グループ学習の取り組み(4)発表内容(5)レポートを以下の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	SCの出席					○	10%
	意欲・関心・態度				◎		20%
	グループ学習の取り組み		○		◎		20%
	発表		◎		○		30%
	レポート	◎					20%
履修上の注意	近畿大学の履修規定により30分以上の遅刻、欠席は単位習得不可とする						

科目名	保育実習 I (施設)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	80時間	担当者	中山八保子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	保育所、児童養護施設、児童発達支援センターにおいて、保育士として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科3年						
授業概要	保育士資格を取得するために児童福祉施設(保育所以外)で行う実習。乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設などの養護施設や障害児入所施設・障害者支援施設などの障害者施設で実習を行う。10日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ ①施設における1日の流れ ②子どもや障害者への理解を深める ③施設保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ ④施設の技術や記録方法について実践的に学ぶ ⑤保育士を志すものとして自覚を高める						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		施設現場で養護と療育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのようにつながるか理解することができる	
				○		実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる	
				○		自分なりの保育観や子ども観を深め確立する	
テキスト・教材 参考図書	幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 保育所保育指針解説書						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	10日間	<p>施設実習では、以下の観点から施設における保育がどのようになされているかを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の内容、機能などを理解する (1日の流れ、子どもや障害者の活動など) 2. 施設保育士の職務内容および役割、また他の職員とのチームワークなどの理解 3. 子どもや障害者を取り巻く社会や家族の問題について理解する 4. 日誌の書き方を学ぶ <p>担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加すること</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・手遊び、歌遊び、絵本の読み聞かせなどの教材や設定保育など施設実習に向けた準備をする ・各自の実習のねらい、課題を明確にする ・実習後の日誌作成のまとめと、実習の反省と課題を明確にする 	
評価方法	①実習日誌・事後レポートなどの提出物 ②実習施設の評価 ③勤務状況等を総合的に評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	提出物		○		◎		50%
	実習施設の評価		○	○	◎		30%
	勤務状況等				◎		20%
履修上の注意	実習要件科目の単位をすべて修得していること						

科目名	【選択】保育実習Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	80時間	担当者	中山八保子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	保育所、児童養護施設、児童発達支援センターにおいて、保育士として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科3年						
授業概要	前回の保育所実習を生かし、子どもの年齢や発達に応じた保育展開、状況に応じた保育の実践、さらに子育て支援としての保育所の役割を踏まえた保育実践に努める						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		「保育実習Ⅰ」を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質、能力、技術を向上させる	
				○		子育て支援をするために必要不可欠知識・技術とニーズに対する理解力・判断力を養うことができる	
テキスト・教材 参考図書	幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 保育所保育指針解説書						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	10日間	<p>保育実習Ⅱでは、以下の観点から保育士としての実践力を高めていこう努める</p> <ol style="list-style-type: none"> ①子どもの年齢や発達に応じた保育や遊びの展開を行う ②その場の状況に応じた子どもへの対応と保育について理解する ③問題のある子どもや保護者に対する対応について理解する ④延長保育や休日保育、育児相談など子育て支援事業の理解 ⑤保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等の実践と理解(部分実習、全日実習、査定実習) ⑥保育士としての自己の課題を明確化する <p>できるだけ、部分実習や全日実習を行い、実践力を養うよう努めること</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・手遊び、歌遊び、絵本の読み聞かせなどの教材や設定保育など保育実習に向けた準備をする ・各自の実習の狙い、課題を明確にする ・実習後の日誌作成のまとめと、実習の反省と課題を明確にする 	
評価方法	①実習日誌・事後レポートなどの提出物 ②実習園の評価 ③勤務状況等を総合的に評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	提出物		○		◎		50%
	実習園の評価		○	○	◎		30%
	勤務状況等				◎		20%
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・実習要件科目の単位をすべて修得していること ・保育実習Ⅰ(保育所)および保育実習Ⅰ(施設)を終えておくこと 						

科目名	【選択】保育実習Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	80時間	担当者	中山八保子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	保育所、児童養護施設、児童発達支援センターにおいて、保育士として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科3年						
授業概要	児童福祉施設(保育所以外)、その他の社会福祉施設での養護についての専門的な理解と技術を学び、児童家庭福祉及び社会的養護、障害者福祉に対する理解のもとに、保護者支援、家庭支援、障害児支援のための知識、技術、判断力を養う						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		既習の強化や「保育実習Ⅰ」での実践を通して学んだ技術と理論を基盤として、保育士として必要な資質、能力、技術を習得する	
				○		家庭と地域の生活実態にふれ、子育てを支援するために必要とされる能力を養う	
				○		児童家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解力、判断力を養い、福祉の視点を持った保育士を目指す	
テキスト・教材 参考図書	幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 保育所保育指針解説書						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	10日間	以下の観点から保育士としての実践力を高めていくよう努める ①児童福祉施設やその他の社会福祉施設の社会的役割と施設保育士の役割 ②児童福祉施設やその他の社会福祉施設における利用児・者と家族支援の理解 ③養護、療育内容・方法の理解 ④多様な専門職との連携 ⑤保育士としての自己課題の明確化				・保育実習Ⅰ(施設)の反省点や自分の課題をまとめておくこと ・絵本やペープサート、運動遊びなどの保育実技を学習すること ・授業後にレポートを作成し、学習内容を深める	
評価方法	①実習日誌などの提出物 ②実習施設の評価 ③勤務状況等を総合的に評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	提出物		○		◎		50%
	実習施設の評価		○	○	◎		30%
	勤務状況等				◎		20%
履修上の注意	・実習要件科目の単位をすべて修得していること ・保育実習Ⅰ(保育所)および保育実習Ⅰ(施設)を終えておくこと						

科目名	地域福祉の理論と方法 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	高崎修一		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	民生委員・児童委員として地域福祉に関与		
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	地域福祉の大切さを学習する。そのために地域福祉に関する考え方、言葉などを理解してもらい、先人たちがいかに福祉に関わり社会福祉とは地域福祉を推進することであるといわれるまでの歴史をたどってきたか、またその歴史に学ぶところはないかを考えていただきたい。そして後期の地域福祉の実践につながる授業を行う。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					地域福祉に関わる言葉の理解。	
		○				基礎的知識をつけそれを応用できる人材を目指す。	
				○		授業に対する熱意、地域福祉に如何に関わっていきけるのかの理解。	
テキスト・教材 参考図書	「よくわかる地域福祉」ミネルバ書房5版、自己作成プリント、参考図書「コミュニティソーシャルワークの理論」大橋謙策氏						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	地域福祉とは、地域とは、福祉とは、日本の福祉に関わる現状とは				授業外学習は特に行わないが、法、制度の改正などに関して常に注意を喚起する。以下同じ	
	2	福祉サービスとは、福祉専門職の心構えとは、地域福祉の必要性					
	3	地域福祉の登場の背景。相互扶助、結、もやい、講など					
	4	地域福祉の2つの機能。個別支援的、地域支援的機能、実践事例					
	5	社会福祉基礎構造改革の必要性と地域福祉の理念					
	6	地域福祉の構成要素。岡村、右田、永田他の理論。コミュニティとは					
	7	地域福祉用語:コミュニティケア、ノーマライゼーション等					
	8	地域福祉用語:ボランティア、協働・パートナーシップ等					
	9	地域福祉用語:エンパワメント、アドボカシー、地域自立生活等					
	10	地域福祉計画。英国福祉の歴史的展開:ヘンリー8世以降					
	11	英国福祉の歴史的展開:ブレア・ブラウン迄、米国福祉の歴史的展開					
	12	米国福祉の歴史的展開:オバマケア迄					
	13	日本の福祉の歴史的展開:仏教伝来、福田思想、～戦前迄					
	14	戦後の福祉3法、6法～地域福祉のあり方研究会報告。					
15	地域包括ケアシステム、地域共生社会の実現、社会福祉法改正等						
評価方法	前期は章ごとの小テストは実施せず正試験での評価がほとんどを占めるが、授業態度、取り組む姿勢なども考慮する。評価基準は当校の評価基準にて5段階評価とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	正試験	○	○				90%
	授業態度				○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は正試験(定期試験)の受験資格を与えないものとする。						

科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	門田雄一		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	社会福祉科 3年生						
授業概要	現代の子供・家庭が抱える諸問題を理解し、かつ取り巻く社会制度・法律・福祉施策・支援機関を知る。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					子供・家庭が抱える問題点の理解	
	○					関る法律・制度の理解	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	少子化問題を知る。					
	2	家庭機能の変化を知る。					
	3	児童福祉法・児童手当法等の変遷を知る。					
	4	児童憲章・子供条約等を知る。					
	5	保育所制度を知る。					
	6	社会的養護制度を知る。					
	7	障害福祉制度を知る。					
	8	母子福祉制度を知る。					
	9	児童自立支援制度・少年非行問題を知る。					
	10	虐待・不登校等について知る① 現状を知る。					
	11	虐待・不登校等について知る② 支援方法等課題を知る					
	12	赤ちゃんポストを知る。					
	13	高齢化と少子化問題の関連を知る。					
	14	児童福祉の世界の現状を知る。					
15	児童福祉の課題と将来について考える。						
評価方法	以下の項目にて評価 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					80%
	発表・授業態度				◎		20%
履修上の注意							

科目名	福祉行財政と福祉計画						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大坪秀生		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	高齢者施設の立ち上げや ケアマネジャーとして勤務		
対象学科・学年	社会福祉科 3年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ●単なる座学で終わらない、グループワークやディスカッションに取り組み言語化していく。 ●専門科目のみに収まらない「社会福祉士」としての職業倫理を学び考える。 ●社会人としての心構えを学び意識していく。 						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○	○	行政や財政が自分たちの生活にどのように関わっているのかを知り、言語化できる。	
	○	○		○	○	行政用語や仕組みを学ぶことで身近に感じ、それが活かされる生活に場面をイメージできる。	
	○	○		○	○	財源や税金の在り方を学ぶことで、お金の大切さや税金の意義を知り、実際の生活に結び付けることができる。	
	○	○		○	○	計画の立て方やその後に行うことを学び、実生活に活かし目標を達成に向けて取り組むことができる。	
	○		○	○		進路について真剣に考え、就職等に向けて計画に基づいて行動することができる。	
テキスト・教材 参考図書	◎新社会福祉士養成講座『福祉行財政と福祉計画』 ○社会福祉士養成講座研修委員会 中央法規 時事話題						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション			この科目の注意事項を伝えます		
	2	福祉とは その成り立ち			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	3	福祉と制度			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	4	行政の骨格			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	5	福祉行政の組織			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	6	社会福祉基礎構造改革			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	7	行政の相談窓口			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	8	予算と財政			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	9	知識チェック			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	10	計画とは？			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	11	福祉におけるニーズ把握			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	12	福祉計画の理論と技法			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	13	福祉計画における住民参加			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	14	福祉計画の目的と意義			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
15	まとめ 振り返り						
評価方法	(1)授業の中でミニレポートや小テストを実施する。(2)グループワークを数回実施する。 (3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 ※定期試験の解答欄に空欄があった場合は、1つにつき5点の減点とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				70%
	小テスト・レポート	◎	○				10%
	グループワーク・発表	◎	○		◎	○	20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会保障Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	宮井浩志		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にてMSWとして勤務		
対象学科・学年	社会福祉科 3年						
授業概要	社会福祉士が相談援助を行う際に必要な社会資源及び諸制度等は社会保障制度に付随しているものである。社会保障制度を活用は必須条件であり、幅広い分野の知識を獲得する必要がある。この科目では、実践に必要な諸制度の概要及び活用法を学んでいく。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					各制度の概要について説明することができる	
	○					支給要件や留意事項を説明することができる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	医療保険制度の理解-保険の種類や医療制度の仕組み					
	2	医療保険制度の理解-診療・休職に関する費用					
	3	医療保険制度の理解-出産に関する費用					
	4	医療保険制度の理解-死亡に関する費用					
	5	年金保険制度の理解-被保険者の種類					
	6	年金保険制度の理解-老齢年金					
	7	年金保険制度の理解-障害年金					
	8	年金保険制度の理解-遺族年金					
	9	労働者災害補償保険制度の理解-概要・認定条件					
	10	労働者災害補償保険制度の理解-医療分野					
	11	労働者災害補償保険制度の理解-年金分野					
	12	労働者災害補償保険制度の理解-休職分野					
	13	雇用保険制度の理解-概要					
	14	雇用保険制度の理解-諸制度					
15	全体のまとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				70%
	発言・質問・学習姿勢				◎		30%
履修上の注意							

科目名	相談援助演習 V						
科目名(英)	Exercises of Social Work V						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山八保子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	保育所、児童養護施設、児童発達支援センターにおいて、保育士として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	この科目は、社会福祉士の養成科目であるが、社会福祉科は保育士を同時に取得する学科であり、学生の大半は児童関係の仕事に就きたいと考えている。したがって、3年の夏に実施される「保育士」資格を取得するための「保育実習(施設)」と「保育実習Ⅲ(施設実習)」の指導を行う科目と位置づけている。具体的には、相談援助実習指導Ⅳやいくつかのスクーリングと連動して、児童福祉施設の基本的知識、特に施設の目的や対象児童の特徴、職員の職種と仕事内容、歴史、支援内容、課題等について学び、児童施設実習がより有意義になるように指導を行う。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○		△			児童養護施設についての基本的知識について学び、説明できる。	
	○		△			その他の児童福祉施設についての知識について学び、説明できる。	
	○		△			児童福祉施設で働く職員について学び、自分自身についての理解を深める。	
	○		△			実習に向けての意識と自覚を高め、実習に前向きに取り組めるようになる。	
○		△			児童福祉施設の児童や利用者への支援内容について理解できる。		
テキスト・教材 参考図書	近大教科書『知りたい時にすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』石橋裕子・林行範著 同文書院 『よくわかる社会福祉第10版』山懸文治・岡田忠克編 ミネルヴァ書房 卒業生の調べ学習を参考に作成した『児童福祉施設実習』実習指導資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	児童養護施設の理解～施設の概要を熟読する				卒業生の調べ学習を参考に作成した『児童福祉施設実習』資料	
	2	児童養護施設の理解～施設の概要を説明する(発表)				卒業生の調べ学習を参考に作成した『児童福祉施設実習』資料	
	3	児童福祉施設の理解～施設の概要を調べる				卒業生の調べ学習を参考に作成した『児童福祉施設実習』資料を基にパワーポイント作成	
	4	児童福祉施設の理解～施設の概要を調べる				卒業生の調べ学習を参考に作成した『児童福祉施設実習』資料を基にパワーポイント作成	
	5	児童福祉施設の理解～施設の概要を調べる				卒業生の調べ学習を参考に作成した『児童福祉施設実習』資料を基にパワーポイント作成	
	6	オリエンテーションの指導				プリント	
	7	児童福祉施設の理解～施設の概要発表①乳児院				パワーポイントを基に発表 教員による補足の授業	
	8	児童福祉施設の理解～施設の概要発表②児童自立支援施設				パワーポイントを基に発表 教員による補足の授業	
	9	児童福祉施設の理解～施設の概要発表③児童心理治療施設				パワーポイントを基に発表 教員による補足の授業	
	10	児童福祉施設の理解～施設の概要発表④母子生活支援施設				パワーポイントを基に発表 教員による補足の授業	
	11	児童福祉施設の理解～施設の概要発表⑤障害児入所施設				パワーポイントを基に発表 教員による補足の授業	
	12	児童福祉施設の理解～施設の概要発表⑥児童発達支援センター				パワーポイントを基に発表 教員による補足の授業	
	13	実習日誌の指導～考察をどのように日誌に書くか				映像を見て記録を書く	
	14	日誌の指導、直前指導				前回の記録の添削より	
15	実習1回目の振り返り				実習の振り返り		
評価方法	(1)授業の出席状況。 (2)調べ学習への取り組み状況と理解度。 (3)調べ学習の内容を試験の代わりにするため試験は行わない。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	調べ学習①	◎	◎		◎		30%
	調べ学習②	◎	◎		◎		50%
	発表・グループワーク	○	◎		◎		10%
	出席状況				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、評価の対象としない。						

科目名	相談援助の理論と方法Ⅳ(社会的養護内容Ⅱ)						
科目名(英)	Theory and method of consultation assistance IV						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川原ゆり		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	障害児治療教育センター相談員・養護教員		
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	この科目は、社会福祉士の養成科目であり、3年間の集大成としての科目として、東住吉小学校福祉体験授業の準備と実践、振り返りに当て、改めて福祉とは何か、について考える機会とする。同時に残り半年で現場に出る学生たちに、自分たちは専門職として働くと言う自覚を養い、プロとして働けるような知識と価値を身につけてもらいたい。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	△			○		福祉体験授業の計画及び準備を行うことができる。	
	△			○		子どもたちと関わる上で、相手に分かりやすく伝えることができる。	
	△			○		福祉体験授業の振り返りを通して、自分自身とグループの関わりを振り返ることができる。	
	△			○		チームで協力し、より良い実践を行うために積極的に発言や行動することができる。	
テキスト・教材 参考図書	『よくわかる社会福祉第10版』山懸文治・岡田忠克編 ミネルヴァ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	福祉体験授業について～昨年度の振り返りとリーダー・チーム決め					
	2	福祉体験授業の計画①骨格作り			東住吉小学校の担任の先生と打ち合わせ		
	3	福祉体験授業の計画②骨格作り			東住吉小学校の担任の先生と打ち合わせ時間内に終わらなければ時間外で準備を行う		
	4	計画に添ってシミュレーション①			時間内に終わらなければ時間外で準備を行う		
	5	計画に添ってシミュレーション②			時間内に終わらなければ時間外で準備を行う		
	6	シミュレーションの振り返りと計画の練り直しと準備①			時間内に終わらなければ時間外で準備を行う		
	7	シミュレーションの振り返りと計画の練り直しと準備②			時間内に終わらなければ時間外で準備を行う		
	8	計画に添ってシミュレーション③			時間内に終わらなければ時間外で準備を行う		
	9	計画に添ってシミュレーション④			時間内に終わらなければ時間外で準備を行う		
	10	シミュレーションの振り返りと計画の練り直し準備③			時間内に終わらなければ時間外で準備を行う		
	11	シミュレーションの振り返りと計画の練り直しと準備④			時間内に終わらなければ時間外で準備を行う		
	12	計画に添ってシミュレーション⑤			時間内に終わらなければ時間外で準備を行う		
	13	計画に添ってシミュレーション⑥			時間内に終わらなければ時間外で準備を行う		
	14	本番に向けて準備			時間内に終わらなければ時間外で準備を行う		
15	本番に向けて準備			時間内に終わらなければ時間外で準備を行う			
評価方法	(1)授業の出席状況。授業への参加態度。 (2)グループ活動の協力、積極的に発言や行動ができているか。 (3)子どもたちへの接し方や伝え方はどうか。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況				◎		10%
	活動への参加度				◎		30%
	グループ内での役割と協力度	○	○		◎		30%
子どもたちへの関わりと伝え方	◎			◎		30%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、評価の対象としない。社会的養護内容は近大科目なので、この単位を落とすと近大を卒業できなくなることに注意。						

科目名	相談援助実習指導Ⅳ						
科目名(英)	Social Work Field Instruction Ⅳ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山八保子・川原ゆり・若狭恵美		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	養護教員、児童福祉施設保育士		
対象学科・学年	社会福祉科3年						
授業概要	この科目は、社会福祉士の養成科目であるが、社会福祉科は保育士を同時に取得する学科であり、学生の大半は児童関係の仕事に就きたいと考えている。したがって、3年の夏に実施される「保育士」資格を取得するための「保育実習(施設)」と「保育実習Ⅲ」(施設実習)の指導を行う科目と位置づけている。具体的には、児童福祉施設の基本的知識、特に施設の目的や対象児童の特徴、職員の職種と仕事内容、歴史、支援内容、課題等について学び、児童施設実習がより有意義になるように指導を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○		△			児童養護施設についての基本的知識について学び、説明できる。	
	○		△			その他の児童福祉施設についての知識について学び、説明できる。	
	○		△			児童福祉施設で働く職員について学び、自分自身についての理解を深める。	
	○		△			実習に向けての意識と自覚を高め、実習に前向きに取り組めるようになる。	
○		△			児童福祉施設の児童や利用者への支援内容について理解できる。		
テキスト・教材 参考図書	近大教科書『知りたい時にすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』石橋裕子・林行範著 同文書院 『よくわかる社会福祉第10版』山懸文治・岡田忠克編 ミネルヴァ書房 卒業生の調べ学習を参考に作成した『児童福祉施設実習』実習指導資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	児童養護施設の理解～施設の概要を熟読する			卒業生の調べ学習を参考に作成した『児童福祉施設実習』資料		
	2	児童養護施設の理解～施設の概要を説明する(発表)			卒業生の調べ学習を参考に作成した『児童福祉施設実習』資料		
	3	児童福祉施設の理解～施設の概要を調べる			卒業生の調べ学習を参考に作成した『児童福祉施設実習』資料を基にパワーポイント作成		
	4	児童福祉施設の理解～施設の概要を調べる			卒業生の調べ学習を参考に作成した『児童福祉施設実習』資料を基にパワーポイント作成		
	5	児童福祉施設の理解～施設の概要を調べる			卒業生の調べ学習を参考に作成した『児童福祉施設実習』資料を基にパワーポイント作成		
	6	オリエンテーションの指導			プリント		
	7	児童福祉施設の理解～施設の概要発表①乳児院			パワーポイントを基に発表 教員による補足の授業		
	8	児童福祉施設の理解～施設の概要発表②児童自立支援施設			パワーポイントを基に発表 教員による補足の授業		
	9	児童福祉施設の理解～施設の概要発表③児童心理治療施設			パワーポイントを基に発表 教員による補足の授業		
	10	児童福祉施設の理解～施設の概要発表④母子生活支援施設			パワーポイントを基に発表 教員による補足の授業		
	11	児童福祉施設の理解～施設の概要発表⑤障害児入所施設			パワーポイントを基に発表 教員による補足の授業		
	12	児童福祉施設の理解～施設の概要発表⑥児童発達支援センター			パワーポイントを基に発表 教員による補足の授業		
	13	実習日誌の指導～考察をどのように日誌に書くか			映像を見て記録を書く		
	14	日誌の指導、直前指導			前回の記録の添削より		
15	実習1回目の振り返り			実習の振り返り			
評価方法	(1)授業の出席状況。 (2)調べ学習への取り組み状況と理解度。 (3)調べ学習の内容を試験の代わりにするため試験は行わない。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	調べ学習①	◎	◎		◎		30%
	調べ学習②	◎	◎		◎		50%
	発表・グループワーク	○	◎		◎		10%
出席状況				◎		10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、評価の対象としない。						

科目名	更生保護制度						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中角久典		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	元刑務所長・大学等非常勤講師		
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	我が国における犯罪者の処遇と犯罪予防を含む更生保護の現状と課題について、事例や動画から現在の社会問題と照らし合わせた上で理解を深める。						
授業形式	講義:	<input type="radio"/>	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	<input type="radio"/>					更生保護の様々な現状を踏まえた上で、自身の考えや感想をしっかりと表現することができる。	
		<input type="radio"/>				罪を償った後の社会復帰への対応の現状について理解するとともに、その妥当性と将来性について考えを深める	
					<input type="radio"/>	実際の更生保護の現場を見学し、講話を通じて現状を身近に感じることから、今後の職業観や人間観に対して再考する機会を設けることができる。	
テキスト・教材 参考図書	プリント・動画閲覧						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	更生保護制度の概要について					
	2	更生保護制度の関係機関とその連携について①					
	3	更生保護制度の関係機関とその連携について②					
	4	現在起こっている事件と更生保護の関連性について①					
	5	現在起こっている事件と更生保護の関連性について②					
	6	医療刑務所について					
	7	北九州医療刑務所の見学					
	8	北九州医療刑務所の見学					
	9	見学の振り返りと更生保護制度の現状と今後の方向性について					
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする 授業の内容を踏まえて、事後レポートを作成・提出。その内容も評価要素として考慮する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	<input type="radio"/>					70%
	出席状況				<input type="radio"/>		30%
履修上の注意							

科目名	就職実務Ⅱ						
科目名(英)	employment practical affairsⅡ						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	山下琢也		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院・高齢者施設にてソーシャルワーカー		
対象学科・学年	社会福祉科 3年						
授業概要	就職活動に伴う意欲・心構えの向上を目指し、就職への意識を高める。就職活動に必要な求職票受付面接への指導や、履歴書の作成の仕方、社会人としてのマナーの学習や今後の人生設計や社会人生活について深く考える。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○	○	○		求職票受付面接に合格する。また、受験に必要な際の求職票を完成させる事が出来る	
		◎		◎		何の為に働くのか何故、この職種につきたいかなど自分の就職に対しての考えを明確にする事が出来る	
	◎					就職活動に関する一連の流れを理解する事ができる	
テキスト・教材 参考図書	就職ガイドブック						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	求職票受付面接について				求職票を持参する	
	2	就職活動の流れについて				就職ノートを持参する	
	3	作文教室					
	4	働く事について考える					
	5	求職票受付面接を踏まえての自己分析について				適正検査の結果を持参する	
	6	履歴書作成				履歴書を用意する	
	7	就職試験について					
	8	就職試験対策					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業の出席 (2)授業に対しての意欲・関心・態度 以上を以下の観点・割合で評価する。評価を行う成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下とする)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業の出席				○	○	50%
	意欲・関心・態度				○		50%
履修上の注意	出席が3分2以上なければ単位習得不可とする						

科目名	交流ゼミⅢ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川原ゆり・山下琢也・若狭恵美		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	専門学校常勤教員として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	社会福祉科の全学年の学生を混合し、グループを編成。そのグループ内で学年を超えた交流を図る。最終的には、当科で実施する「交流会」に向けての準備を行うことができる。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		積極的な姿勢を持って、他学年の学生やグループ内の学生とコミュニケーションを図ることができる。	
				○		物事の段取りを修正しながら、臨機応変な対応を行いつつも計画的に行事を実行することができる。	
				○		物怖じすることなく、積極的にレクリエーションに参加することができる。	
				○		グループの中心となり、レクリエーションを企画・運営することができる。	
			○		人間同士の関わりの中で、人間関係の調整を図ることができる。		
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グループ内の自己紹介・他己紹介					
	2	グループ内でのレクリエーション					
	3	グループ内でのレクリエーション					
	4	グループ内でのレクリエーション					
	5	グループ内でのレクリエーション					
	6	グループ内でのレクリエーション					
	7	社会福祉科「交流会」に向けての準備					
	8	社会福祉科「交流会」に向けての準備					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	ゼミに臨む姿勢、態度が第一優先である。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	
	姿勢・態度				◎		
						評価割合	
						100%	
履修上の注意	2/3以下の出席状況にて、単位習得不可とする。						

科目名	相談援助の基盤と専門職Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	熊谷妙子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	高齢者・障がい者施設にて相談員・施設長として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	相談援助の基盤と専門職Ⅱ						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		人の命や尊厳や人権についての理解を深める	
				○		自分と他社の価値観の違いを理解し、受け入れることができる	
	○	○		○		基本的なコミュニケーションスキルを身に着ける	
	○	○		○		相談援助を行う上で不可欠なチームプレイを重視した動きができるようになる	
テキスト・教材 参考図書	・全国社会福祉協議会「福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程テキスト」						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	福祉職員へ向けての目標設定			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	2	命と尊厳 現場編			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	3	自己覚知 アンガーマネジメント②			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	4	アンガーマネジメント演習			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	5	相談援助の基本 傾聴②			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	6	傾聴②演習			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	7	現場で活かす接遇②			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	8	接遇演習②			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	9	会話を発展させる コーチング②			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	10	コーチング②演習			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	11	専門職の視点を養う リスクマネジメント②			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	12	リスクマネジメント②演習			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	13	仲間と仕事を深める メンバーシップ②			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
	14	メンバーシップ演習			授業で学んだことを意識して、日々、実践を意識すること		
15	1年間のまとめ			1年間を振り返り、就職に活かすこと			
評価方法	以下の項目にて評価 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト	◎	○				50%
	宿題・レポート	◎	◎		◎		20%
	発表・作品	◎	◎		◎		30%
履修上の注意							